



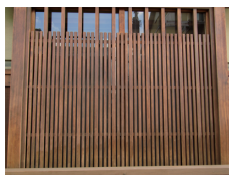
いぬやらい 雨の跳ね返りや軒下を
犬矢来 通る犬や猫の放尿から
壁を守るために付けられたアー
チ状の垣根。竹や木でできたも
のが主流ですが、最近金属製
も増えてきています。



むしごまど 町家中二階、通り
虫籠窓 に面した部分に付け
られた窓。形が虫籠に似ていた
のでつけられた名前だと言われ
ています。

こうし 格子

町家では多様な格子を見ることができます。例えば「糸
屋格子」。格子の上部を切り取ることで光を多く取り入
れ、着物の柄などを見やすくした作りになっています。
他にも炭粉が舞わないようにした「炭屋格子」、耐久性
のある頑丈な「米屋格子」、麩屋、豆腐屋で使用された
水に強い「麩屋格子」など町家の使用用途によって様々。
格子を見ることがその町家の歴史がわかるかもしれま
せん。



撮影：水野克比古氏

上京区では町家の格子を活かした
「都ライト」というライトアップ
イベントも開催されています。

しょうき 鍾馗さん



「鍾馗さん」は唐の玄宗皇帝の夢枕に現れ、鬼を退散さ
せたという中国の故事にちなんだ魔除けの神様で、様々
な表情をしています。屋根の上に小さくちょこんと立っ
ている姿は一見可愛らしく見えますが、よく見るとに
らみを利かせていて、家に邪気が寄ってこないように
しっかり見張っているのです。

どっしりかまえる
しょうきせん



明日って今セッ！
未来をみずえ子
しょうきせん

ちょっと
こわい？



どや！



知ってると、
さんぽが楽しい。

上京区の町家 をしる

M A C H I Y A



町家とは？

「ウナギの寝床」と表現される、間口が狭く奥行きが深いつくりが特徴的な京都の伝統的な都市住宅のことです。現存する町家は明治から大正時代にかけて再建されたものがほとんどで、築50年から100年以上のものまであります。木、土、竹、紙などの自然の素材を使って造られているので、人にも環境にも優しい家です。人々の知恵や美意識がたくさん詰まっており、長い間受け継がれてきた歴史が感じられます。今日では、町家の数も住む人も減少していますが、町家レストランやカフェなど京都の魅力的なスポットが新たに生まれています。

町家豆知識

いちもんじがわら 一文字瓦

下側のラインが真っすぐ一文字に揃えられている瓦。街並みを引き締める効果があるとされています。



とう ガス灯

お店の看板の役目を果たしたと言われていました。文明開化の時代に流行しました。



こまよ 駒寄せ

かつて馬に乗ってきた客が手綱をくくっていた名残と言われており、人馬の侵入を防ぐためという説もあります。



しょうき ぱったり床机

壁の付けられた折りたたみ式のベンチ。商品の陳列や椅子として活用されています。

